



県勢の活躍が目立った 全国身体障害者スキー大会

第29回全国身体障害者スキー大会が3月3日と4日の2日間、安代町の安比高原スキー場で開かれた。大会では、寺館正勝選手（小国小職員）が、男子大回転タイムレース2部と回転の2種目でメダルを手にし、大谷浩司選手（東北電力）が、申告タイムレース初級男子で優勝、藤沢浩子選手（滝沢村）が、同競技女子で優勝するなど県勢の活躍が目立った。最終日に行われた表彰式では、県勢選手たちの晴れ晴れとした姿が印象的だった。



岩手山火山防災フォーラムで 経験に基づいた防災策を提言

建設省東北地方建設局と県主催による「岩手山火山防災フォーラム」が3月11日、防災関係者や市民ら約500人が参加して岩手県民会館で開かれた。パネルディスカッションでは、「情報の共有や連携が必要」「地域で防災のリーダーの育成を」などと、雲仙普賢岳の噴火で災害対策に奔走した鐘ヶ江管一・前島原市長、十勝岳の噴火災害対策を指揮した水上博・前美瑛町長らパネリストから経験に基づいた防災対策が提言された。



県観光キャッチフレーズと マークの最優秀受賞者を表彰

県は3月14日、盛岡市内で県観光キャッチフレーズ・シンボルマーク最優秀賞受賞者の表彰式を行った。表彰されたのは、キャッチフレーズ「こちら、岩手ナチュラル百貨店。」を考案した花巻市の県職員多田悦博さん（写真右から2人目）とシンボルマークをデザインした福岡市のグラフィックデザイナー三好健一さん（写真右端）。増田知事は「さまざまなキャンペーンでキャッチフレーズとシンボルマークをセットにして積極的に活用したい」と述べた。



岩手で学んだことを生かして 親善友好を誓う海外研修員たち

開発途上国や県出身者のいる南米移住国などからの海外技術研修員や県費留学生、海外自治体職員研修員の平成11年度研修発表会と修了式が3月14日、県庁特別会議室で行われた。あわせて14人が、昨年春から10カ月間（留学生は一年間）にわたって県工業技術センター、岩手大学などで研修したり、学んできた成果を発表。修了式では「いわて親善大使」の委嘱状も手渡され、相互理解・親善友好を深めていくことを誓っていた。